春期海外語学研修報告

2019年度カザフスタン春期ロシア語研修について（2020年2月17日～2020年3月14日）

臼山利信（CEGLOC）
二ノ宮崇司（筑波大学アルマトイオフィス）

中央アジアのカザフスタン共和国でのロシア語研修(「海外語学研修ロシア語C」)は、今年度で6回目を迎えた。本科目はCEGLOC開設科目であるが、初回～3回目までは､地域研究イノベーション学位プログラム（ASIP）が主たる運営を担ってきた。今回は「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」（NipCA）の実務上の支援を受けた。その意味で、全学的なグローバル人材育成プログラムとも連動した科目となっている。

カザフスタン共和国は1991年にソヴィエト連邦から独立した後、基幹民族で人口の過半数を占めるカザフ人の民族語であるカザフ語を国家語としている。また同国ではロシア語も公用語で、日常生活からビジネス、教育や学術の言語として広く普及している。

今回の研修は、本学の協定大学であるアルファラビ・カザフ国立大学を受入先機関として、ロシア語およびカザフ語の習得と異文化理解を目的として実施した。同大学構内には本学のアルマトイオフィスが設置されており、二ノ宮崇司（アルファラビ・カザフ国立大学日本語招聘教授）が同オフィスのコーディネーターを務めている。本研修も、二ノ宮が所属するアルファラビ・カザフ国立大学東洋学部の全面的な支援を受けて実現した。同学部の関係者に記して感謝申し上げたい。

研修には本学学生14名が参加した。ロシア語履修経験者はうち半数程度であり、ロシア語運用能力の向上を第一目的として参加した。同年度夏期開催のキルギスでの海外プロジェクト研修に参加し、中央アジア圏の文化に興味を持ったことを理由に研修に参加した者も数名いた。派遣前に参加者には2回にわたり事前研修（研修内容説明、危機管理等）を実施し、ロシア語未履修者に対しては基礎的な語学研修も行った。

2019年度のロシア語研修には、筑波大学だけでなく、東京外国語大学でロシア語を勉強している学生も参加した。研修の中心はアルファラビ・カザフ国立大学の準備学部でのロシア語学習である。本年度の研修実施期間はコロナウイルス発生の最初期にあたり、参加学生に対して渡航後数日間にわたる検査体制が敷かれたため、例年に比べ若干変則的な日程を余儀なくされた。また本来は既存のロシア語コースに組み入れられる予定であったが、受け入れ大学側の定員の都合により日本人学生のために別途コースが用意されることとなった。結果として一週間に7

コマ、3 週間で計 21 コマの授業となった。

準備学部でのロシア語研修以外に、アルマトイオフィスが日本人研修生のためにカザフスタン全般に関する授業を提供した。二ノ宮崇司によるカザフ語の言語的特徴に関する講義、Umitai Amirbekova 上級講師によるカザフ文学の講義（日本語通訳つき）、Lyailya Balakaeva 准教授によるカザフスタンの歴史の講義（英語）である（すべて任意参加の授業）。さらにエクスカーションとして、世界遺産のタムガリ岩絵群、カザフスタン最大の渓谷であるチャリンキャニオンを訪れる機会が設けられた。また、現地家庭でのホームステイ体験学習も実施された。さらに例年、カザフスタンの日本語学習者との交流の機会として、研修生にはカザフスタン日本語弁論大会への参加を呼び掛けているが、今年はコロナウイルスの影響により、弁論大会の開催自体が中止となった。

研修のまとめとして、通算で第 6 回目となる国際学生フォーラムを開催した。これは研修生のグループとカザフ国立大学の学生グループが日・露・英語をまじえて発表・ディスカッションするという場である。2019 年度のテーマは SDGs の 17 の目標のうちの第 9 番目 «Создание прочнойинфраструктуры, содействиеобеспечению всеохватной и устойчивой индустриализации и внедрению инноваций»（産業と技術革新の基盤をつくろう）であった。日本人学生が SDGs の概要、産業と技術革新における日本の取り組み、またカザフ人学生がカザフスタンにおける産業と技術革新の取り組みについて発表した。

本研修では、筑波大学海外留学支援事業（はばたけ！筑大生）により 10 万円の渡航費支援を受けた。研修を終えて、参加学生は「さらにロシア語を勉強したい」「留学をしたい」「他のロシア語圏諸国へも行ってみたい」など、語学や海外留学に対するモチベーションが格段に高まったようであり、帰国翌年度に新規でロシア語を履修する学生も現れた。新型コロナウイルスが猛威を振るう現状にあっては、本研修を通じて留学を志すようになった学生をすぐに現地に送り出すことは難しいが、今後も継続的にカザフスタンでの語学研修を実施し、意欲ある学生を多く生み出していきたい。

第 6 回国際学生フォーラムの様子

研修に参加した筑波大学の学生